

平成22年度学校評価「浜松市共通項目」(小学校)の結果と考察

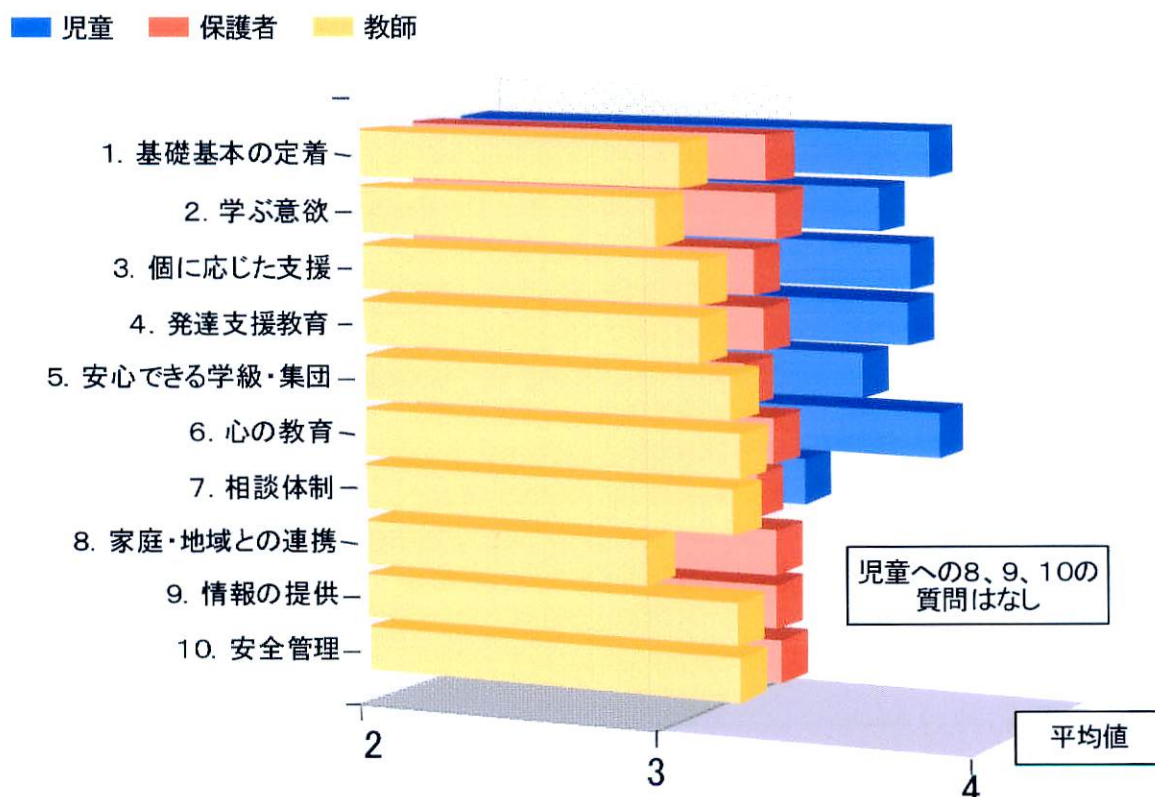
本市では、学校評価の「浜松市共通項目」10項目(表1)について、児童、保護者、教員に対しアンケート調査をした。項目ごとに「4 とても思う 3 まあ思う 2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない」の回答を求め、各学校からその平均値の報告を受けた。結果を分析し、その考察を示す。

表1:学校評価「浜松市共通項目」とその結果

評価項目	児童	保護者	教員
1. 基礎基本の定着	3. 56	3. 18	3. 05
2. 学ぶ意欲を向上させる授業の工夫	3. 40	3. 21	※2. 97
3. 個に応じた支援	3. 50	3. 14	3. 11
4. 子ども理解を基盤とした発達支援教育	3. 50	3. 17	3. 11
5. 安心できる学級・集団づくり	3. 35	※3. 10	3. 21
6. 心の教育(生命尊重・規範意識の醸成)	3. 60	3. 20	3. 24
7. 相談体制	※3. 16	3. 15	3. 22
8. 家庭・地域との連携	調査なし	3. 21	※2. 94
9. 情報の提供	調査なし	3. 21	3. 23
10. 安全管理	調査なし	3. 31	3. 24

※は、注目すべき数字

グラフ1.学校評価「浜松市共通項目」の調査対象別分布



<児童のアンケート結果に対する考察>

表1から分かるように、児童は、すべての項目で「3」以上を示しており、学校の指導に対する満足度の高いことがうかがえる。特に、「基礎・基本の定着」「個に応じた指導」「子ども理解を基盤とした発達支援教育」「心の教育(生命尊重・規範意識の醸成)」では、3.5以上を示している。これらの項目は、「はままつの教育」において大切にしている

「分かる・楽しい授業」「教育的ニーズに応じた支援」「一人一人を大切にした発達支援教育」「心の耕し」と合致しており、このことから、小学校の教師は本市教育の重点を十分理解し、子どもたちが満足感を得られるような教育活動をしていると言える。

一方、「相談体制」の項目は、過去3年間、他の項目と比べて低くなっている（H20は3.15、H21は3.19、H22は3.16）。改善に向けての努力が必要な項目である。改善のためには、教師が子どもとふれ合う時間を生み出したり、子どもが充実感を味わえるように相談体制を工夫したりすることが必要であろう。

＜保護者のアンケート結果に対する考察＞

グラフ2
「安心できる学級・集団づくり」に関する保護者の考え方

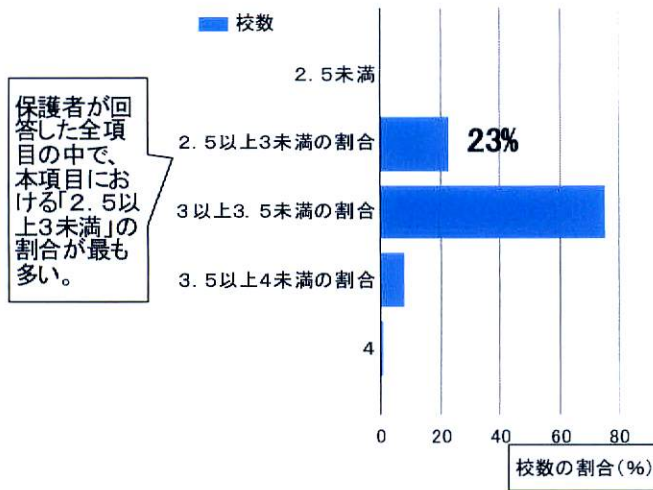


表1、グラフ1から、「安心できる学級・集団づくり」の項目は、他の項目に比べて保護者の評価が低いことが分かる。これは、グラフ2に見られるように「2.5以上3未満」の保護者の存在が多いことが原因ではないかと考えられる。全体の75%の保護者は、「3」以上を示しており、本項目に関する評価は高いと言えるが、23%の保護者は、本項目に関して満足しておらず、平均値を押し下げているのである。

グラフ2の形は、「個に応じた支援」「子ども理解を基盤とした発達支援教育」「相談体制」の保護者の回答結果を表したグラフに似ており、保護者の「一人一人の子どもを大切に教育を進めてもらいたい」という思いが表

れていると見ることができるとは思えないだろうか。

学校は、これまでも増して一人一人に目を向け、どの子ども認められ、尊重される学級・集団づくりを行い、より多くの保護者の理解が得られるように教育活動を進めていく必要があるだろう。

＜教員のアンケート結果に対する考察＞

グラフ3
「家庭・地域との連携」の考え方に対する教員と保護者の割合比較

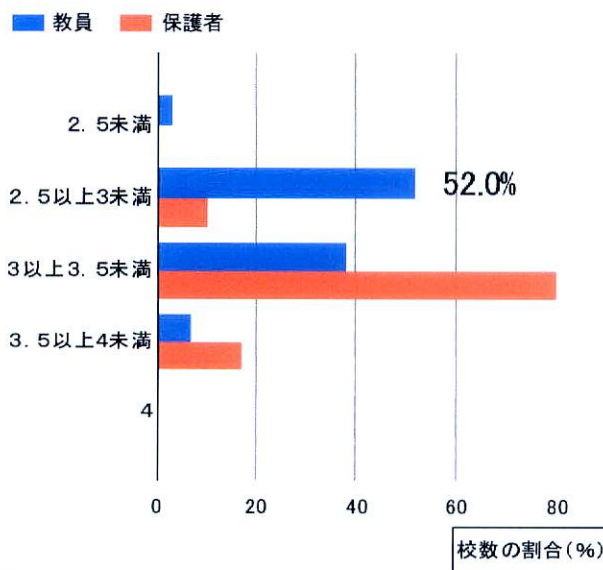


表1から分かるように、教員の平均値は、「学ぶ意欲を向上させる授業の工夫」「家庭・地域との連携」の項目で「3」以下であった。しかし、児童や保護者は、これらの項目について高く評価しており、教員は自らに厳しく向き合った結果、低い評価をしていることが見て取れる。

「学ぶ意欲を向上させる授業の工夫」については、自らに厳しく向き合う教員が、一層前向きに自己研さんを積み、子どもにとって分かる・楽しい授業を実現させていくことが求められる。

「家庭・地域との連携」については、教員の評価は最も厳しい評価をしている（グラフ3）。「2.5以上3未満」の割合は、52.0%であり、全項目の中で、最も多い。今後、校内で、「家庭や地域の協力を得る機会」を作り出す方策を検討していく必要があるだろう。